

学びあい、育ちあい  
ひびきあう子どもたち

社会福祉法人 蒼生会

幼保連携型認定こども園

モモ・ピノ

小規模保育園

ナナ

令和2年度事業計画

ワクワク

ハキハキ

ニコニコ

ウキウキ

## 目次

I	はじめに .....	1
II	法人理念 .....	
	・理念の三層構造	
	・蒼生会『7つの行動指針』	
III	子どもの権利と保護者支援 .....	2
	・子どもの権利に関する園内外の研修	
	・保護者の理解・協働を深めるための取り組み	
IV	評価を踏まえた改善 .....	3
	・自己評価サイクル	

各園の全体的な計画・重点課題および計画

- 認定こども園モモ
- 認定こども園ピノ
- 保育園ナナ

# 令和2年度 児童福祉部事業計画

幼保連携型認定こども園モモ  
幼保連携型認定こども園ピノ  
小規模保育園ナナ

## I はじめに

児童福祉部3園が、学びあい、育ちあい、ひびきあうためには、規模にかかわらず、ひとつひとつの園が自立することが必須である。そのため今回の計画より各園での自己評価後、3園で共通すべきことのみを確認し園ごとに計画を策定することにした。数年先に起こりうる利用人数の減少に対し、質の高い保育を目指し学び実践続ける専門家集団として、質の高い教育・保育、離職率の低い現場環境、地域貢献の3つの柱で立案した。

## II 法人理念

一人一人が福祉および教育保育のプロとして、法人理念に基づき質の向上に取り組みます。

一人ひとりが向上心を持って、目的・目標を達成し、「自立」を目指す。  
そして、自立した人たちによって連帯社会・「共生」社会を形成する。  
「共生」社会の中で、より多くの人たちが「自立」できるように助け合う。  
さらに多くの人たちが「自立」し、より大きな「共生」社会の形成へと繋がる。

理念の三層構造



### 蒼生会『7つの行動指針』

- 1 私たちは、常日頃から互いの立場にたって行動し、お互いを尊重し合える関係をつくります。
  - 2 私たちは、日々、同じ大きな目標に向かって進み、同時に、自分の中に小さな目標を立て、行動します。
  - 3 私たちは、日々、自己を高める努力を怠りません。
  - 4 私たちは、私たちを取り巻く、多くのルールを遵守し、その行動には責任を持ちます。
  - 5 私たちは、今いる地域で根を張り、その地域全体が大きく育つように努力します。
  - 6 私たちは、常に変化を恐れず、勇気をもって変化を生み出す立場になり、同時に、その変化を受け入れられる、ゆとりを持ちます。
  - 7 1～6以外で、一人ひとりが自分にとって大切な行動指針をひとつ定め、それを遵守します。
- 「 」

### Ⅲ 子どもの権利と保護者支援

こども園、保育園は、家庭での子育ての実践を支えます。

子どもの最善の利益に考慮した教育保育を行います。

子育ての第一義的責任を有する保護者を支え、子どもにかかわるすべての人が、権利の主体である子どもの「最善の利益」を最優先に考えて行動する地域社会を目指し、以下のことに取り組みます。

#### 1. 子どもの権利に関する園内外の研修

子どもの権利条約「4つの柱」



#### 2. 保護者の理解・協働を深めるための取り組み

すくすく成長記録、保育ドキュメンテーション、教育保育への保護者の参画（行事・保育参加・保育者体験）、保育アプリ「キッズリー」で子ども様子・園のおたより・給食に関すること・保健に関すること・行事に関することを配信、連絡帳、カシオペア祭

### Ⅳ 採用計画 『求める人材の採用と育成』のための採用計画

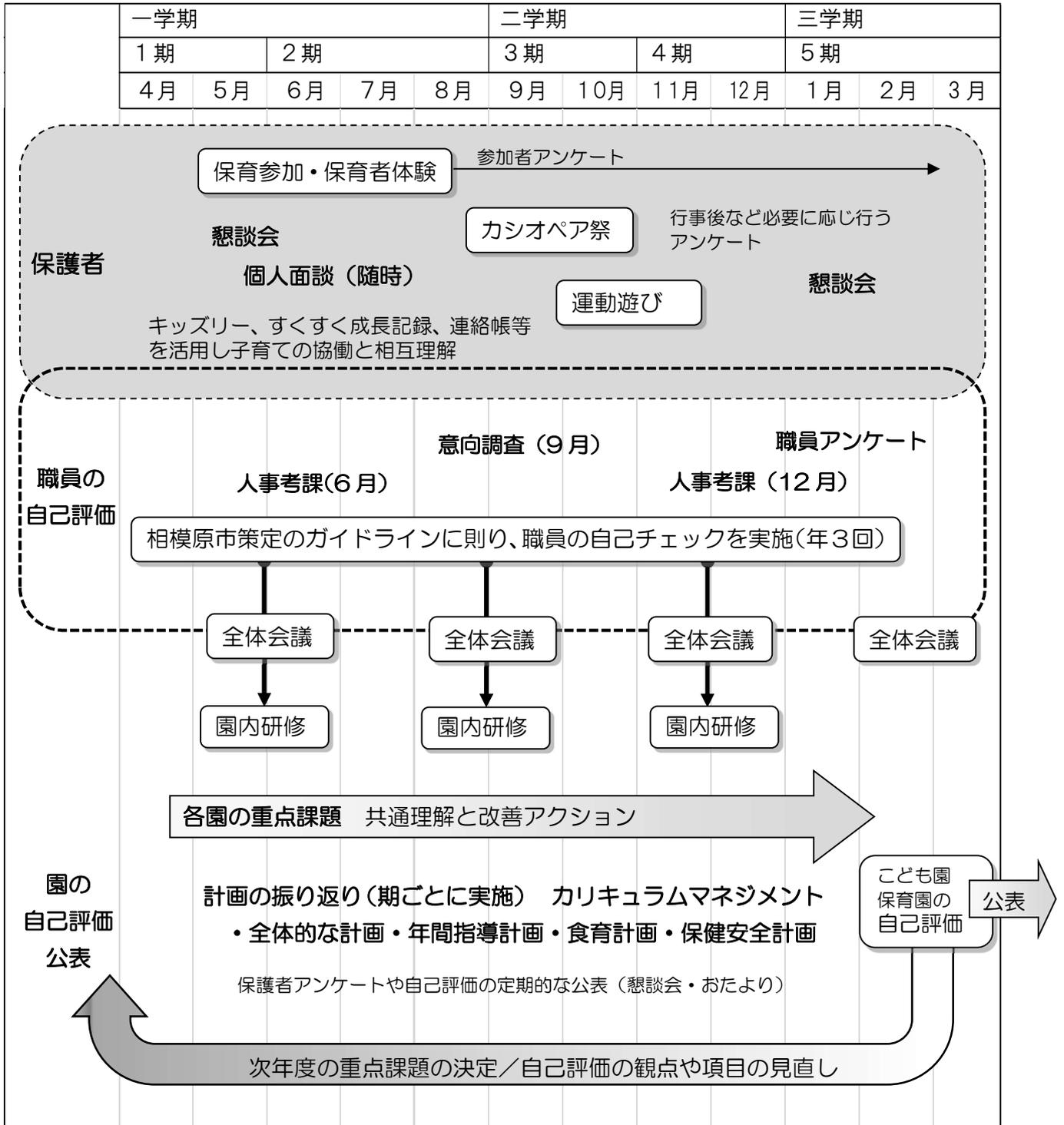
5月～	養成校への聞き取り調査 ※園見学は通年実施
6月	次年度の暫定目標（採用人数）の確認 求人NAVIへの掲載
7月	養成校訪問：相模女子大、駒澤女子短大、玉川大学他 持参：園パンフレット ※2020版を作成中 2020.3月完成予定 学生向けイベントカレンダー ※新規作成 カシオペアのパンフレット ※児童福祉部用作成 就職説明会のチラシ （求人票は後日送付） 養成校へのふれあい体験ガイダンス
8月	各種就職相談会への参加 ・就職説明会①②・養成校就職ガイダンス・保育のしごと就職相談会 ふれあい保育体験受け入れ増（7～9月）※ふれあい保育体験は通年受け入れ 学生の夏休みボランティア受け入れ 各学校へ求人票送付
9月	カシオペア祭への招待 1次募集
10月	運動遊びへの招待：認定こども園モモ・認定こども園ピノ 2次募集
10.11月	養成校の学園祭への訪問
11.12月	追加募集（必要に応じ）
1月	内定者への年賀状送付 日本保育協会経営懇親会（養成校関係者との情報交換）
2月	入職前研修の案内送付
3月	入職前研修 養成校の卒業式への参加
4月	入社式・新人研修 養成校の入学式への参加

3園で連携し、人材育成や採用に関する研修や情報交換会へ参加する。養成校とともに保育士養成をしていく意識を持ち、よりよい実習実践をする。情報収集と養成校とのつながりや連携に取り組む。

## IV 評価を踏まえた改善

定期的に自己評価を行い、研修と連動して職員間での共通理解を深め、目標達成に向けた組織的改善、教育保育内容の改善プロセスを構築します。

### 自己評価サイクル



幼保連携型認定こども園

認定こども園モモ

令和 2 年度事業計画

## 目次

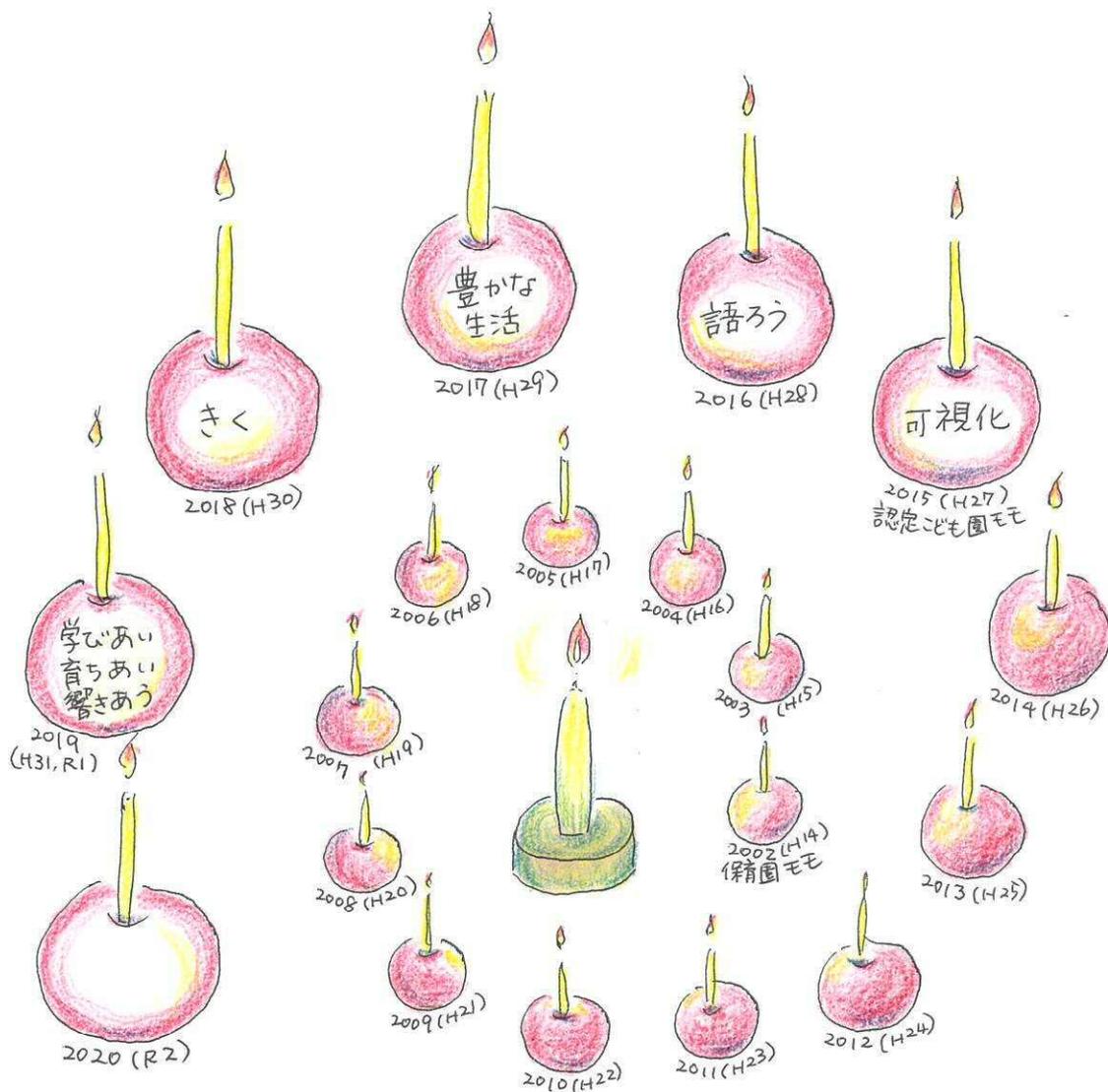
	令和 2 年度のテーマ
P1～	I 事業計画作成にあたり
P2	II 職員配置
P2～P3	III 課題
P4	IV 研修計画
P6～P7	V 子育て支援
P7～P10	VI その他の年間計画
	全体的な計画 他

# 令和 2 年度テーマ

## 整える

身体を整え、心を整え、思考を整える

子どもをおおう、すべての環境を整えることをテーマに実践していきます。



## I 事業計画作成にあたり

環境を通して行う教育及び保育の意義を理解し、子どもの主体性と保育士やの意図のバランスをとり保育実践をする。全体的な計画を基に実践する中では、一人ひとりの職員が計画を自分の言葉で語れることを目標にしました。

### ○教育保育目標を達成するために 全体的な計画を図式化

#### 方法

- ・遊び（生活）を通して学ぶ
- ・失敗から立ち直り、失敗から学ぶ（経験）
- ・協同的な学びの試行錯誤

#### 物的環境

- ・季節の移ろいを感じる自然体験
- ・自然素材を中心に多様な素材や道具
- ・手作りの玩具

#### 地域社会

#### 子ども

- ・好奇心旺盛な子を育む保育
- ・しなやかな心と体を育む保育
- ・子どもに心をよせ、子どもの願いに心を合わせる保育

#### 保護者

#### 事的環境

- ・保育実習（養成校/高校生 /中学生）
- ・保護者の保育者体験
- ・小学校との連携・接続

#### 人的環境

- ・活動に応じた人数構成
- ・専門家との協同（臨床心理士、養成校教員）
- ・保育者の子ども理解
- ・育ちゆく姿の言語化及び可視化
- ・職員の学び合いにつながる対話の時間
- ・保育準備時間の確保と活用

## Ⅱ 職員

	常勤	非常勤
園長	1	
主幹保育教諭	1	
副主幹保育教諭	2	
指導教諭	1	
保育教諭	9	6
保育補助		1
看護師	1	
栄養士	2	
調理師	2	
事務	1	
ライフサポーター		2

## Ⅲ 課題

平成 30 年度の自己評価では「連携がスムーズでない」という課題が見えてきたため、連携の目的や連携する相手、場を可視化して取り組んできました。しかし、令和元年度(平成 31 年度)の自己評価で課題として挙げられた事柄の背景にも「連携不足」が見えました。そこには各々で繋がりたいと思う瞬間が違ったり、子どもの発達を十分に理解できていなかったり、連携の目的等を正しく理解していないことも連携できないことが原因として挙げられたと考えました。

保育においては日々の実践が当たり前になり、専門性に裏付けされている事実を意識していなことも見えてきました。

そこで、専門性とは何か。専門性を高め、学び続けられる園の仕組みを可視化していきます。

### 課題1「専門性を高める」

#### ○取り組み方法

- ・子ども理解に向けた会議や省察
- ・環境整備(物的・人的)

### 課題2「連携」

- ・新任職員を対象とした教育課程の作成及び人材育成
- ・モモの実態に即した専門性のキャリアラダーの作成及び保育実践

#### ○取り組み方法

- ・専門性を高める学びの場※1
- ・伝達式の会議を廃止。(報告事項等は掲示後で周知する。)
- ・KJ法や田の字、ワールドカフェ等で話しやすい場の確保
- ・日々の振り返り(その日のねらいに対する省察)
- ・全職員参加の研修

○到達の視点

・楽しく記録が取れ、喜びをもって他者と共有する。「語りたくなる保育者になれたかどうか」

○確認方法

・自己評価

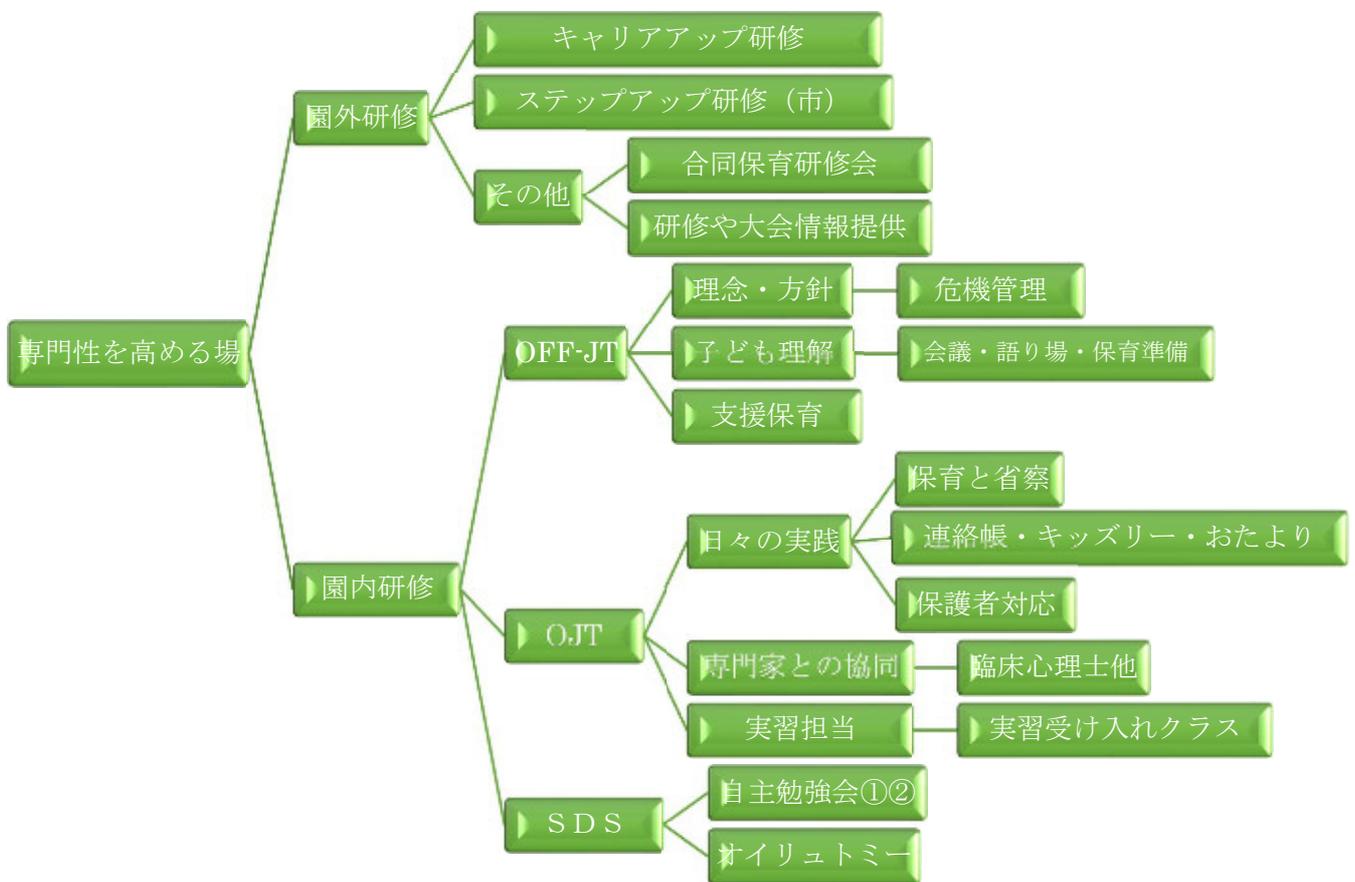
園内外の研修・・・報告を情報共有する。研修受講者が次の研修者(講師)となって実践

保育アプリ・・・成長記録の文章表現

通信(園のたより)・・・保護者や地域に向けた配信内容

保育実習・職業体験等の人材育成・・・実習生対応

※1 専門性を高める学びの場



○取り組むための時間の工夫

・通信等、手紙を保育アプリでの配信に変更

・ライフサポーターの活躍

・会議の種類を厳選し、減らして語り合える場の時間を確保と活用。

伝達の会議を廃止し、事前入力、意見を付箋に書いて持ち寄ることで時間短縮、有効化を図る。

・専門家との協同(臨床発達心理士)

・ミーティングは各クラスの状況に応じたメンバーで構成し、内容や回数を決める

## IV 研修計画

### ・施設全体の研修目的

法人理念 -子どもの人権-シュタイナー教育 -「改定保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育保育要領」の理論を学び、実践する

### ・職員の等級別研修内容

別紙「児童福祉部キャリアパス」

### ・研修手帳

職員一人ひとりに配布。園内外の研修受講記録をまとめたもの。

キャリアアップ研修、相模原市ステップアップ研修、その他の外部研修

研修後に各自の研修手帳に受講日の記入と受講者からの押印をし、受講が質の向上と自己評価・人事考課に反映させていくものとする。

## 1. 園内研修

### ※上記の他、各園の重点課題に応じて行う園内研修

全体的な計画(3月)・保護者支援研修(外部講師 日程調整中)・市中堅研修受講者による園内研修

## 2. 園外研修

キャリアアップ研修、アレルギー、衛生管理・感染症、給食業務、防災・救命救急、年齢ごとの教育保育、事故予防、苦情要望、保育実習・主幹・主任研修、施設長研修、オーディオペーデ等

## 3. 自主研修

保育士会研修、保育連絡協議会研修等

自主勉強会①：年10回 モモ 18:15～又は13:15～(読書会)

自主勉強会②：年10回 18:30～20:00

外部講師による支援保育：1回／年

オイリュトミー：年10回 18:30～20:00

### ※自主研修援助制度の適正な運用

キャリアパスに応じた自主研修を受ける場合には、交通費や研修費用を支援する制度を活用する。

発達相談(臨床発達心理士による相談)：希望者

## R2園内研修年間計画

	理事長・園長による研修	職員による研修	外部講師による研修
4月	新人研修①法人理念 新人研修②入職手続き 基本方針・就業規則他 新人研修 安全ツアー 新人研修 業務マニュアル 人材育成・実習1	危機管理 園の書式 食育1 子ども理解	支援保育(トート)
5月	新人研修③	危機管理・プール監視者 人事考課 効果基準 子ども理解 記録の取り方:事実と解釈～	
6月	新人研修④ 危機管理(全体会議) 祝祭・ガイドライン・要領	危機管理:睡眠・SIDS 危機管理:食物アレルギーの対応 生活習慣1 プール・水遊び	
7月	新人研修⑤ 人材育成・実習2	生活習慣2 支援保育①(市と園の書式他) 中堅研修Ⅱ②	
8月			
9月	自己評価	子ども理解	発達体操「子育て広場」
10月	自己評価☆	感染症処理キットの使い方	
11月	自己評価他(全体会議)	人事考課 効果基準 中堅研修Ⅱ②公開保育	発達体操「子育て広場」
12月	人材育成・実習3	食育2 子ども理解	
1月	事業計画☆		
2月	事業計画		
3月	事業計画(全体会議)	子ども理解(新入園児)	

主な研修は12月までとし、1月は自己評価・事業計画作成の時間に充てる。

全体会議の研修以外は対象者を指定して研修を実施する。

☆:主幹・副主幹・指導教諭4名

水彩、パステル、手仕事、昔話等シュタイナーに関する学びは自主勉強会内で実施。

## V 地域子育て支援

各園の専門性や地域性を十分に考慮し、地域において必要と認められる支援を適切に実施するように取り組む。

### 1. 一時保育事業の実施

#### ①「一時預かり型・特定保育型」

利用者のニーズにできるだけ合わせ、短時間でも積極的に受け付けていく。利用する家庭の事情や保護者の育児負担が見られる家庭には一時保育の利用前に園庭開放や子育て広場の利用を勧めていく。問い合わせの電話が育児相談につながるケースには臨機応変に対応したり、保護者と直接会って話をする機会を設けたりして地域の保護者支援、子育て支援をしていく。

目標：日常生活において自分の人生の主人公になれるように、自己選択・自己決定を行なう力をつけ、保護者自身が生活や環境をよりよく調整できる支援をする。

#### ②「子育て広場「コトコ」

月	交流事業(毎月1回以上)	講座(3回以上)
4	羊毛ボール作り	
5	積み木作り	
6	虫よけスプレー作り	孫育て
7	離乳食の作り方・進め方 (妊婦・生後6か月頃まで)	
8	離乳食 食べさせ方 (妊婦・生後6か月過ぎ～)	
9	おさがり交換会	発達体操
10	離乳食の作り方・進め方 (妊婦・生後6か月頃まで)	
11	積み木作り	オルガネット演奏会 孫育て 発達体操
12	冬の飾り作り	
1	おさがり交換会	
2	離乳食の作り方・進め方 (妊婦・生後6か月頃まで)	
3	羊毛ボール作り	

#### ○園庭開放日(週1回以上)

水・木 9時半～11時 予約なしで利用可とする。(前年度より曜日は減らし、時間を増やした)

新入園児には入園前の園庭開放利用を勧め、園の環境に慣れておいてもらう。

#### ○育児相談

広場担当者がある時は随時受付。(電話も可)

## ・子育て広場について

今年度は曜日限定し、時間を長くして利用時間を増やします。昨年度、地域に住む方の育児の場として園庭開放の日設け、気軽に遊びに来られる機会を増やしました。利用後(遊んだあと)の保護者と語らいが気軽な育児相談の場となっており、園へ出向いてもらうことで相談相手が見えることが安心感となり、個人の育児相談へとつながると考えています。相談の中では食事に関することが多く、「好き嫌いが多くて食べてくれない」「動き回って買い物もままならない」など日常の悩みを持つ場合ではお子さん自身の発達に課題があるケースもあります。そのため、「はじめての離乳食」「離乳食の進め方」の講座も継続します。地域の保護者が育児に悩み、家に引きこもってしまうことがないよう、地域の子育て支援の場として引き続きこども園の存在や役割を発信していきます。今年は妊婦さんからも参加できるように、対象者の枠を広げていきたいと思ひます。

昨年度は祖父母を子育ての対象とした企画をしました。子育ては子どもの親だけでなく、祖父母の協力を得て行なうケースもあるため、祖父母の視点から子育ての喜びや苦勞を語りあうことで子どもたちをサポートする環境も把握出来ました。この企画も、継続していきます。恒例となっている相模女子大学教授トート・ガーボル氏による「発達体操」では、オムツ替えの仕方や抱っここの仕方ひとつで子どもの発達が促せることがわかり、親子が日頃の関わりの中で行なえる内容であるため、毎回定員になるなど好評を得ています。今年度も2回実施し、合わせて職員のみ研修を行い、保育者自身が学びを深めています。

美味しいスープを作るには、時間をかけて目を離さず、心を離さず煮込んでいく必要があります。子育てと一緒に。手をかけ、心を掛け、丁寧に人や物に関わることを大切にしたいと思ひます。

今年度より広場の名称を「ひだまり」から「コトコト」に変更します。保護者に寄り添いながら子育て支援・保護者支援の担い手をなるとを旨します。

## 3. 地域との連携体制

### ・3園の子育て広場及び相談支援担当者の連携

子育て広場の参加者や見学者への3園の情報提供と周知

### ・地域の関係機関との連携

## VI その他の年間計画

### 1. 会議

	会議名	参加者・回数
会議	代表者会議・給食会議 ケース会議 CD会議	主に主担任・13回/年 CD/学年担任・2回以上/年(3月と9月) CD・施設長・必要に応じて
打ち合わせ/研修	打ち合わせ/研修	対象者・必要に応じて開催。
3園共通	児童福祉部会議 防災連携園会議	各園施設長・主幹各園の係 4月と2月(必要に応じて)

会議は報告・確認事項は事前に入力し、検討事項を会議内で行い、業務削減、時間の有効活用をする。話し合いや研修では付箋をつかったワークやホワイトボードに記入をして、個人のノートを廃止し、情報共有をする方法徹底していく。

## 2. 全体会議

日程	内容	勤務体制
6/6(土)	伝達事項 研修 訓練:非常用滑り台体験・放送設備・隠語・心肺蘇生訓練・エピソードレナー訓練・防犯訓練(玄関)	半日勤務 (土曜グループ通常業務者は一日勤務) 会議中はナナの職員が保育に従事する。
11/29(日)	伝達事項 研修 行事準備(りんごの庭) 訓練:(園外防犯訓練)	一日勤務 ※勤務後、3園合同親睦会
3/13(土)	伝達事項:次年度の事業計画 研修 新年度準備:各部屋の整理・整頓 新担任にて打ち合わせ	一日勤務 (卒園式 9:30~)

## 3. 行事予定 ※詳細は別紙年間予定表

月	園内行事	保護者参加行事
4	入園の集い・進級のお祝い、春のおまつり	
5	幼児遠足	乳児懇談会、幼児遠足
6		幼児懇談会
7	夏のおまつり(幼児)プール開き	
8	プール納め	
9	カシオペア祭『学びあい、育ちあい、ひびきあう子どもたち』	引き取り・引き渡し訓練 災害時伝達訓練、
10	運動遊び(幼児)	運動遊び(幼児)
11	秋のおまつり	保育ウィーク
12	冬のおまつり、りんごの庭(幼児)・お楽しみ会(幼児)	
1		懇談会 防犯教室
2	卒園遠足	
3	卒園式	卒園式
備考	誕生会は一人ひとりの誕生日に実施	誕生会(幼児)

※保育者体験:6月~2月

※保育参加「来て見て遊ぼう」:(5月~3月)

#### 4. 健康管理 ※詳細は別紙保健計画

(1)健康診断

利用開始時の健康診断及び、市の健診マニュアルに則り実施

(2)歯科健診

市の健診マニュアルに則り実施

(3)身体測定

市の健診マニュアルに則り実施

(4)尿検査

年1回実施

#### 5. 訓練計画 ※詳細は別紙安全計画

月	全職員対象の訓練 (全体会議)	園児と職員対象の訓練と内容		外部講師による 訓練
4		消火訓練・避難訓練	人数確認方法・避難経路の確保・確認方法	
5	危機管理 心肺蘇生・放送設備・ 非常用滑り台・隠語 2 人用抱っこひもの使用 方法等	消火訓練・避難訓練 <u>通報</u> 訓練	非常用滑り台を使用 消防署への <u>通報</u>	
		非常用持ち出し袋点検		
6	危機管理： アレルギー誤食訓練 嘔吐時の処理方法	消火訓練・避難訓練	水害時避難・持ち出し	
		防犯訓練(職員・園児)	園庭への侵入者	
7		消火訓練・避難訓練	避難カートを使用 避難所・鶺野森中学校へ避難	
8		消火訓練・避難訓練	2人用だっこひもを使用 避難場所予告なし	
9	危機管理： 地域日枝神社大礼祭 災害用品・備蓄品点検	消火訓練・避難訓練	引き取り・引き渡し訓練 災害時伝達訓練	
10	危機管理 地域 防災訓練	消火訓練・避難訓練	広域避難場所・古淵鶺野森 公園への避難	交通安全教室 (4・5歳児)
11	危機管理： 防犯訓練(園内・園外)	消火訓練・避難訓練	水消火器を使用した消火	
		非常用持ち出し袋点検		
12		消火訓練・避難訓練 <u>通報</u> 訓練	消防署への <u>通報</u>	
1		消火訓練・避難訓練	夕方電気不通時	防犯教室 (5歳児・5歳児 保護者)
2		消火訓練・避難訓練	日時の予告なし	
3		消火訓練・避難訓練	日時、代行予告なし	

※消火訓練 年12回・通報訓練 年2回・水消火器訓練 年1回 実施

## 6. 施設管理

内容		担当者
○園舎の修繕 保育室、園舎内外の環境・安全の報告後 適宜修繕又は修繕依頼を行う		事務、主幹
○園内外の環境整備 園児が安全に過ごし、心身の健康と情緒の安定を図る		全職員
園児が安全に過ごせる環境作り	園内外の安全点検-修繕 ・「ひやり-事故」の報告 ・日常清掃-布玩具等の洗濯 ・掃除用具の清潔・布巾類の衛生管理 ・消毒の適切な使用・散歩コースの安全点検-情報共有(散歩マップ作成)・遊具等の点検	
室内外での適切かつ快適な環境作り	適切な気温-湿度の設定 ・グリーンカーテン-すだれの設置 ・遊具等の補充 ・花の植え替え ・雑草取り ・砂場の砂補充	
担当による定期点検		保健衛生・安全対策
○園内外の設備点検・整備		防火管理者
法定点検	年2回 業者による消防設備の点検	委託業者
消防設備点検	年3回 自主点検	施設長、主幹
園内外設備点検	年3回 自主点検	施設長、主幹
日常点検	毎日	全職員
○砂場の細菌検査 年1回		委託業者
○庭木の剪定 年2回		委託業者
○定期清掃 年3回		委託業者
○害虫駆除 年3回		委託業者
○環境衛生検査 年2回		学校薬剤師

幼保連携型認定こども園

認定こども園ピノ

令和2年度事業計画

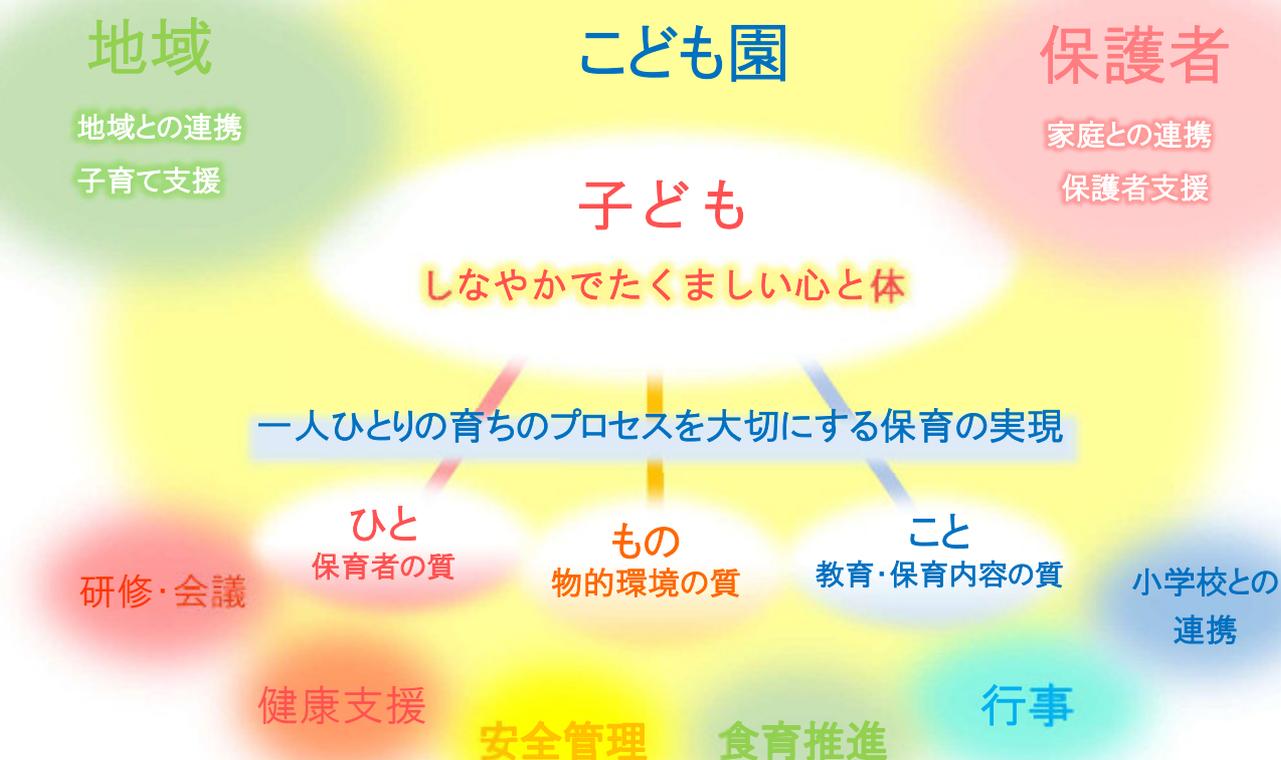
## 目次

P1	事業計画の作成にあたり 育てたいこども像
P2	令和2年度 重点課題 「一人ひとりの育ちのプロセスを大切にする保育の実現」
P3	●教育課程および年間指導計画  ●行事  ●健康支援  ●安全管理・事故防止
P4	●災害への備え  ●食育の推進  ●保護者支援・子育て支援  ●研修計画  ●組織・会議計画
	添付 ①～⑭

## 事業計画の作成にあたり

昨年度の取り組みを通して、子ども一人ひとりがその子らしく育つことを保障する教育・保育の実現には、子どもを理解し肯定的に受け止める保育者の力、そして子どもの居場所となる柔軟な保育環境を作り出すチームの力が重要であることを学びました。園が目指す教育・保育を実現するために、今年度の計画作成に当たっては「育てたい子ども像」を職員と語ることからスタートし、子どもの育ちを支えるすべての計画の連続性や“つながり”を意識して全体的な計画を作成しました。

①全体的な計画



## 育てたい子ども像「しなやかでたくましい心と体」

目まぐるしく変化する社会のなかで、変化に対応する「しなやかさ」と最後まであきらめず自分らしく生きていく「たくましさ」は生きる力になります。子どもたちの「しなやかでたくましい心と体」を育てるために、私たちはどんな保育者であるべきか、どんな環境や教育・保育内容がふさわしいのかを問いつづけ、子ども一人ひとりの育ちの理解を深めるために令和2年度は次の重点課題に取り組みます。

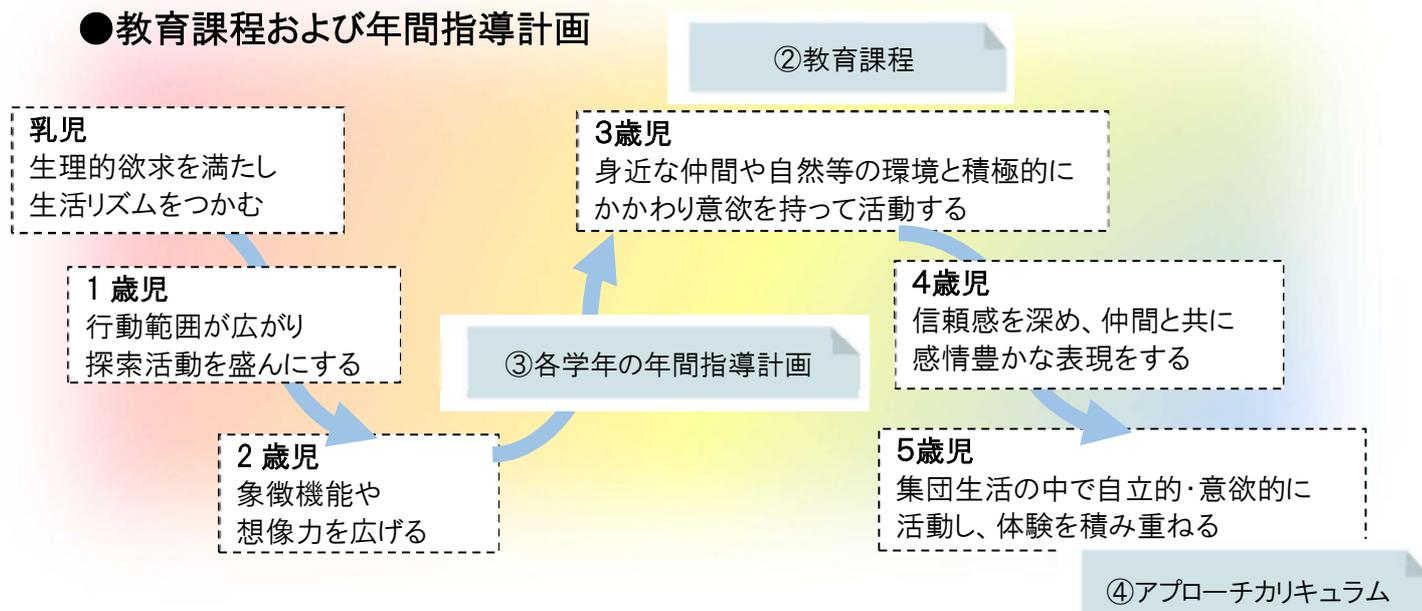
## 令和2年度 認定こども園ピノ 重点課題

### 「一人ひとりの育ちのプロセスを大切にす保育の実現」

子どもは様々な人や環境と出会い成長していきます。出会いのなかで体験を積み、身近な環境を通して学んでいます。子どもを囲む「ひと・もの・こと」の環境の質を左右するのは、教育・保育を実践する保育者自身にかかっています。向上心を持って学び続け、子どもの心に寄り添い、子どもの「やりたい」を実現するために一緒に楽しみながら心が動く体験をしていける保育者を育成し、子どもの発達に合った環境構成の充実と教育・保育の質を共に向上させていくチーム作りに取り組みます。

到達までのプロセス	到達の根拠(評価方法)
<p>○研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応答的な関わりの必要性を学ぶ研修(対話ツールの使い方と実践)</li> <li>・季節を感じることの大切さを学ぶ研修 年4回</li> <li>・期ごとのコーナーや環境設定の見直し</li> </ul> <p>○語る時間の確保</p> <p>次のステップで、子どもを肯定的に捉えながら保育者が子どもの発達を語る時間を確保する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①クラスの振り返りタイムで子どもの育ちをテーマに語る</li> <li>②代表者会議で共有する。</li> <li>③職員全員で共有が必要な時は全体会議で意見を出し合いながら子ども理解を深めていく</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語る際は、対話ツールやもくもくシートを使用して可視化する。①に関しては、必要に応じて主幹または園長が(アドバイザーとして)参加する</li> </ul> <p>○公開保育(園内・園外)の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内公開保育は全クラス1回は行う</li> <li>時期・テーマの設定は園長が中堅研修参加者と話し決定する</li> <li>・相模原市の中堅研修による公開保育の実施より第三者からの評価を改善に活かす</li> </ul> <p>○指導者によるフォロー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主幹が保育の具体的指導、助言を行う</li> <li>・指導教諭は研修を主導し、指導助言を行う</li> </ul> <p>○職員間の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間の保育交流を年度後半に行い、積極的に互いの保育を知る機会をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを実践し、応答的な関りによって子どもがどのように成長したか対話ツールによって見えてきた(自己評価・アンケート)</li> <li>・季節を感じる研修と期ごとのコーナー見直しによって遊びや制作が充実したものになった(自己評価)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育ちを理解するために意見を出し合い、子ども理解が深まった(自己評価)</li> <li>・担任だけでなく、園全体でももくもくシートなどのツールを使い、子どもの成長に繋がった(自己評価)</li> <li>・もくもくシートなどを活用したことにより、子どもを肯定的に捉えながら子どもの発達を語ることができた(アンケート)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開保育を行い、問いの立て方や問いに対しての改善が見られた(自己評価)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考える職員が増え、課題を掘り下げる力がついてきた(アンケート)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの保育に、より関心をもって職員間コミュニケーションが活発になり、協力・連携しながら課題に取り組むことができた(アンケート)</li> </ul>

## ●教育課程および年間指導計画



昨年度の自己評価を踏まえ、育ちのプロセスと連続性を意識して計画の見直しを行いました。  
各学年の接続期、小学校との接続についてもカリキュラムの改善を図ります。

## ●行事

季節の祝祭や日常の節目としての行事を大切にしながら、今年度の新たな取り組みとしては、毎年モモ・ピノ合同で開催していた運動遊びを各園で開催し、法人のお祭りであるカシオペア祭当日(午前中)はピノを会場として地域や保護者に向けた催しを行います。行事の当日だけでなく、子どもと共に準備し体験するなかで子どもたちが成長していく姿を地域や保護者に向けてホームページやおたより、掲示で発信します。

⑤年間予定

## ●健康支援

健康支援(状態把握、健康増進、疾病対応)を図るための年間計画を作成しました。

目標:生活リズムを整え、丈夫な体づくりと基本的な生活習慣や態度を身につけると共に、自分の健康に興味、関心を持ち、病気の予防などを通して命の大切さを学ぶ

⑥保健計画

## ●安全管理、事故防止

子どもが本物に触れたり、自ら体験することを保障する教育・保育の価値には常にリスクが伴います。年間計画を立て、組織的に園内外の安全管理、事故防止に取り組みます。

目的:安全な教育・保育環境を確保するため、子どもの年齢・発達・場所・活動内容に留意し事故の発生防止に取り組む

⑦安全計画

⑧施設管理計画

## ●災害への備え

地震、火災だけでなく、風水害への備えやJアラート等、想定し得る様々な災害に備えた訓練、日常点検および備蓄整備を実施します。

⑨避難訓練年間計画

## ●食育の推進

園の食育は、食べるだけでなく、食を通じた様々な体験の中で豊かな人間性を育むことを目的としています。今年度も年間計画を作成し、食育の推進に取り組みます。

⑩食育計画

目標：食を営む力の気を培う～五感を使って楽しくたべる～

## ●保護者支援・子育て支援

保護者が子どもの成長に気付き、子育ての喜びが感じられるように、また地域における乳幼児期の教育・保育の中心的な役割を果たす園となることを目指し、今年度より「保護者支援・子育て支援」の年間計画を作成しました。主幹保育教諭を中心として、学校としての教育および児童福祉としての保育並びに子育て支援の有機的な連携を図り、園全体で保護者支援・子育て支援に取り組みます。在園児との交流や園行事と共同した取り組みを増やすことにより、園職員が地域との“つながり”をより身近に感じ、地域の子育てに貢献する意義を高めることをねらいとしています。

目標：地域社会の子育ての実践する力や継承につながる取り組みをする。

保育者(職員)自身が地域とのつながりを感じ、保育や園行事と共同して、子育て広場は毎週実施することにより、保護者の居場所、相談できる近い存在となれることを目指す

(新・子育て広場『ゆったりこ』)

⑪保護者支援・子育て支援計画

## ●研修計画

自園の特色ある教育・保育で大切にしている普遍的な事柄については継続的に研修を実施し、方針・理念への理解を深めます。加えて、今年度は重点課題に応じた園内研修の時間を確保し、学んだ事を実践し振り返り改善することで専門性の向上を目指します。

⑫研修計画

## ●会議計画

組織における役割を明確化し、会議の効率化と職員間の連携を図ります。

⑬会議計画

⑭組織図

小規模保育事業 A 型  
保育園ナナ

令和 2 年度事業計画

## 目次

P1	事業計画の作成にあたり 大切な7つのつながり 令和2年度重点課題について
P2	重点課題
P3	実践に向けての計画について 子育て支援・地域活動
	●全体的な計画 ……添付① ●年間計画 ……添付② 1～3 ●食育計画 ……添付③ ●安全計画 ……添付④ ●保健計画 ……添付⑤ ●研修計画 ……添付⑥ ●行事予定 ……添付⑦

## 事業計画の作成にあたり

開園してから 3 年の月日が経ちます。今年度初めのころ、近隣にお住いの一時保育利用者から「こんなに近いところに保育園があったなんて…」というお話を伺いました。ご近所でありながら、知られていなかったことに衝撃を受けました。新入園児の確保ができなかった理由が 1 つわかり、外部へ向けての取り組みを始めました。社会福祉法人である以上、地域貢献活動を行い、地域での役割を果たさなければなりません。そこで、次年度、施設として運営していく為に大事な地域社会との繋がりや職員の育成(人材育成)に力を入れようと決意致しました。地域の方に向けて、園開放による催しや自治会行事への参加と広報活動を積極的に行うこと。また、大切な職員一人一人が心身ともに健康で、働きやすい環境作りと教育・保育の質の向上のために学ぶ風土づくりを目指し、次年度の計画を立てました。

## 大切な 7 つのつながり



私たちの思いは、自園の保育方針と保育目標を実現させることです。専門知識を活かし、質の高い保育が展開されるよう、子どもの発達や、保育園の役割の更なる学びを深めていきたいと思えます。そのためには、自ら学ぶ研修や、様々な繋がりが必要となります。活発な園内研修と左記の7つの大切なつながりとの連携と活用をしながら進めてまいります。

## 令和 2 年度重点課題について

今年度の振り返りの中で、実践に伴う結果としては、不十分な点が多くありました。課題へ取り組むプロセスが大切であり、達成が到達点ではありませんが、チームとして、皆で取り組むことでの達成感を得ることは、一人ひとりのやりがいへ繋がります。次年度は、あえて課題を継続することで今年度とは違うプロセスを辿り、到達点へ近づきたいと考えました。今年の振り返りを踏まえ、次年度の計画も更に加えて、内容を変更しました。

## 重点課題

今年度の重点課題	振り返り	次年度の重点課題	目指す姿	到達までのプロセス
法人理念に基づく保育方針の理解を深めると共に実践する →次年度も継続	保育方針の理解を深めるための園内研修が少なく、園長の責務が果たせていなかった。また、研修後に実践されているかの確認作業に欠けていた。次年度は、計画や研修がどんなところへ繋がっているのかとPDCAサイクルの構築が必要。	法人理念に基づく保育方針の理解を深めると共に実践する	学びえたことを実践することで、仕事への満足感を得て、更なる質の向上につながる。 長期的な目標としては、この法人で働くことにおいて、ワークライフバランスの実現を目指す。	・園内研修の計画的な実施と充実 ・外部研修を受けた職員による園内研修の実践 ・研修後の実践に伴確認作業 →職員一人ひとりとの対話時間を設け、大切にする。
業務の整理と効率化 →次年度も継続	個々の業務を可視化することで、互いの仕事内容を把握できたが、効率的には進まなかった。日々の保育計画と職員配置の見直しが必要。後期は、クラス内での振り返り（10分会議）が「充実したものになってきたことは、継続していく。	業務の整理と効率	各自が担う仕事内容と量を知り、日々目的と責任を持って業務時間内で取り組む。 互いに相手を知り認め合うことで、職員同士の連携を深め、業務にあたる。 長期的な目標として、個人の能力を生かし、質の高い組織風土づくりを目指す	シフト管理の徹底 優先順位の整理 業務への取り組み 10分会議の継続による、連続性のある保育内容と計画の実践 職員間のコミュニケーション マネジメントの実践
入所児確保 →次年度も継続	計画になかった、園独自の子育て広場を開催。数名の参加はあったが、4月からの園児確保に関しては、定員割れからのスタートとなった。 職員全員での取り組みに欠ける。	園児確保 開かれた園づくり	地域の方に、保育園の存在を知らせ、一人でも多くの方が、遊びに来ることができる「お顔の見える園づくり。 長期的な目標としては、地域の方の助けとなり、コミュニティの場として生活の一部になる施設作りサ高住との協力も必要となる。	活発な広報活動 ・HP掲載・自治会掲示依頼・チラシ作り・園看板の設置 積極的な一時保育の受け入れ 独自の子育て広場開催 役割分担し、買う自我責任をもって取り組む

## 実践に向けての計画について

保育園ナナ(小規模保育事業 A 型)は、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準第三十五条の規定に基づき、厚生労働省が告示する保育所における保育の内容に関する事項及びこれにする運営等に関する事項を示した、保育所保育指針に則り、教育・保育の質の向上を目指し、実践してまいります。

実践にあたって…

計画に基づいて進めていくには、内容を十分に理解し、PDCAサイクルによる取組を行うことが必要です。そのためにすべきことは、自ら学ぶことにつながります。専門的な知識を深めるために、園内研修を活発に実施していきます。

全体的な計画 添付①	年間計画 添付②-1～3	食育計画 添付③
安全計画 添付④	児童福祉法 保育所保育指針	保健計画添付⑤
研修計画添付⑥	行事予定添付⑦	子育て広場・地域活動

※各計画は、添付資料参照

## 子育て支援・地域活動

目的：地域に開かれた子育て支援の実施

専門性を活かした子育て支援を積極的に行うよう努める

特に、預かる対象年齢が「0歳から2歳児」である為、同じ年齢での子育てにお悩みの方の助けになるよう取り組みます。

方法：一時保育の積極的な受け入れ(ただし、余裕型である為、定員割れしている時のみ)

独自の子育て広場開催 「ナナであそぼう」

→HP 掲載での宣伝・自治会掲示依頼・チラシ作り(散歩時に職員が配布)

保育者：積極的な挨拶・自治会行事への参加・地域清掃

法人の人間としての自覚を持ち行動する。利用者は、地域の方である為、ナナの存在と一緒に宣伝して下さる協力者となって下さるよう、日々の関りや、保育内容の充実を図り、質の向上を目指します。

<子育て広場実施日程> 各月土曜日開催 同時に見学も可

4月	ふれあい遊び・園開放	10月	園開放・人形劇
5月	ベビーマッサージ	11月	ベビーマッサージ
6月	園開放・短冊作り(自然物で和紙染)	12月	園開放・手仕事
7月	水遊び	1月	わらべ唄やふれあい遊び
8月	ベビーマッサージ	2月	園開放・手仕事
9月	園開放・積木づくり	3月	園開放

・ナナの施設周りは、この時期雑草が多く、蚊やアリの発生が多い為、草取りをする事で、子どもたちの遊ぶ環境整備が必要。今年度は、保護者の参加者を募り、保護者同士での交流と子どもたちが過ごしている環境をより理解していただけるように企画致します。